

魅力あるストーリーで新しいまちの景色を創り

未来へ

つながり

DAIGO

Daigo Town connecting to the future



魅力あるストーリーで新しいまちの景色を創り

未来へつなぐDAIGO

誰もが安心・安全に暮らせる 思いやりに満ちたまちづくり



01

- 災害に強く安全なまちづくりの推進
- 持続可能で快適なまちづくりの推進
- 誰もが健やかに暮らせる安心なまちづくりの推進

防災・生活基盤・福祉

Foundation of Disaster Prevention and Life



住みよいまちづくりを進めるために、安全で快適な生活環境を整備しています。令和元年東日本台風で町内の多くの地域が浸水被災したことを教訓に、久慈川緊急治水対策プロジェクトによる治水対策や河川整備、役場庁舎の高台移転、防災道の駅の整備など、国や県と連携した「災害に強いまちづくり」を進めています。生活基盤の整備については、助成金による住環境の向上や道路交通環境の整備事業等を推進しています。また、障がい者や高齢者が、生涯安心して暮らせる支援体制の充実を図ります。



介護施設での椅子太極拳レッスン



大子町消防本部



大子町保健センター



健康づくり教室「楽しいエクササイズ」



大子町環境センター焼却施設・リサイクル施設

魅力あるストーリーで新しいまちの景色を創り

未来へつなぐDAIGO

未来を担う心豊かな 人を育むまちづくり



02

- 人と文化を育む心豊かなまちづくりの推進
- 未来を担う子育てを支援するまちづくりの推進

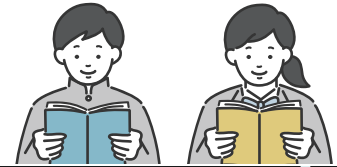
教育・文化・子育て

Education, Culture, Parenting



ブリティッシュヒルズにおいて英語研修

未来を担う子どもたちには、先進的な教育を受け、将来の夢を実現してほしいという考えから、町では、町内小中学校の全児童生徒にタブレット端末を配布し、ICT教育の実践に取り組むほか、英語教育にも力を入れています。また、子育ての相談支援体制の強化や子育てに係る経済的負担を軽減するため、様々な施策を行っています。



子育て支援センター



大子町芸術祭

読書のまち宣言

平成19年6月



図書館「プチ・ソフィア」



小学校での読み聞かせ

魅力あるストーリーで新しいまちの景色を創り

未来へつなぐDAIGO

元気、にぎわい、活力ある 産業を創造するまちづくり



03

- 農林業や中小企業へ支援を強化し活力に満ちた豊かなまちづくりの推進
- 生き生きと働き、活躍できるまちづくりの推進

産業

Industry



ワーケーションモニターツアー

大子町の美しい自然や豊富な特産物などの地域資源を活用して、安心して信頼できる農林畜産物の産地づくりや大子ブランドの確立を進めています。生産者の高齢化や担い手不足なども問題は深刻化していますが、ロボット技術やスマート農林業を推進するなど、農林業の振興を図っています。また、地域の特性を活かした競争力のある商工業を育成し、新たな雇用の場を確保することで、活力あるまちづくりを推進しています。また、新型コロナウイルス感染症の拡大により企業の中にはテレワークを導入する企業が増え、都市部からの移住希望が増加傾向であり、空き家バンク制度等を充実させ、移住定住のための環境整備を推進しています。



畜産の振興(和子牛市場)



林業(八溝産材の搬出)



高い技術力を持つ工業



若手経営者等の先進企業訪問ツアー

魅力あるストーリーで新しいまちの景色を創り

未来へつなぐDAIGO

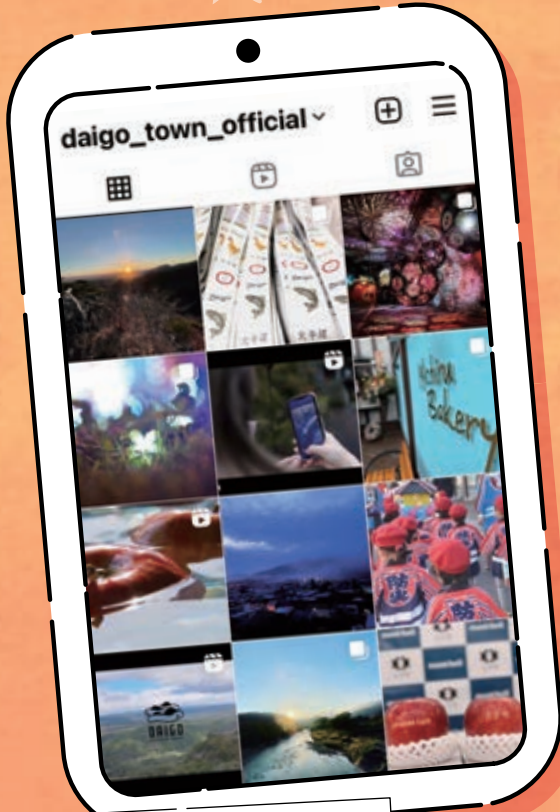
地域の資源を紡ぎ、 町のストーリーとして 発信するまちづくり

04

- 豊かな地域資源や交流から、新たな魅力を創出するまちづくりの推進
- 地域資源を活かし、まちの魅力を戦略的に発信するまちづくりの推進

地域資源・情報発信

Local resources, Information dissemination



SNSによる情報発信

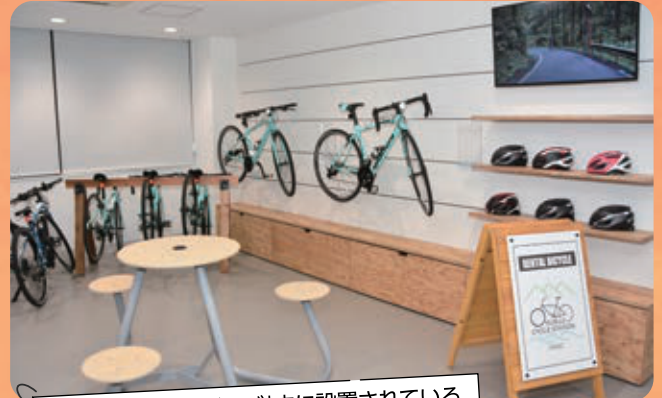
大子町の基幹産業である観光業の活性化を図るため、自然環境や様々な地域資源を活用して地域の魅力創出を図るとともに、様々な分野、主体と連携して事業に取り組んでいきます。



大子町の魅力満載の「奥久慈里山ヒルクライムルート」



大子町営研修センター



「道の駅奥久慈だいが」内に設置されている奥久慈サイクルステーション



古民家活用事業【旧吉成邸】



茨城フェアで大子町の特産品のPR

魅力あるストーリーで新しいまちの景色を創り

未来へつなぐDAIGO

交流と協働による、魅力あふれ、 健全で持続可能なまちづくり



05

- 住民とともに築く自立したまちづくりの推進
- 豊かな暮らしを守る環境に配慮したまちづくりの推進
- にぎわいと活気を生み出す活力あるまちづくりの推進

交流と協働

Alternating current & Cooperation



常陸大子駅と那須塩原駅を結び
「奥久慈おでかけ快速バス」

大子町では、コンビニエンスストア等における公的証明書の発行や、町内の郵便局での一部の行政サービスの委託により住民の利便性向上を図ります。また、ゼロカーボンシティ宣言をし、町全体での資源リサイクルや省エネルギー、二酸化炭素の排出量削減など環境保全運動を推進しています。



大子町の野菜や手作り雑貨が大集合
「ラクダマーケット」



5月30日のゴミゼロの日に合わせた
「美化キャンペーン」



医療機関での
マイナンバーカード出張申請



商店街の若手有志が開催している
100円商店街

行政

大子町では、「日本一幸せなDAIGOづくり」を推進するため、自然災害や感染症をはじめ、少子高齢化や人口減少の進行など、様々な課題に対応したきめ細かな対応、町民の皆様が安心安全に暮らせるまちづくりを進めてまいります。



町長 高梨 哲彦



副町長 赤津 康明



教育長 松本 成夫

Municipal Government



町議会は13人の議員によって構成され、町政運営の方針や各施策、予算、条例などを審議し、町の方向性を決定する最高議決機関です。年4回の定例会と必要に応じて臨時会が開かれます。議員は、予算・決算委員会（議長は除く）と総務経済又は文教厚生いずれかの常任委員会に属します。

議会

City Council



大子町では、旧石器時代の遺構・遺物は確認されていませんが、縄文時代と奈良・平安時代の遺跡が多く確認されています。このことから、久慈川とその支流の広がりにより水利に恵まれ、古代から人々の生活が営まれてきた様子が伺えます。

平安時代には、陸奥国白河郡に属し、10世紀前半の辞書「倭名類聚抄(わみょうるいじゅしょう)」によれば、八溝山東南の地で、白河郡17郷の一つ「依上郷」として成立していました。その後、「依上保(よしかみのほ)」と呼ばれ、今この地方を「保内郷(ほないごう)」と呼んでいるのは、この「依上保」からきた名称だといわれています。

鎌倉時代には、下総の結城朝光の孫、祐広が白河に居住以来、白河結城氏の影響を受け、在地領主の勢力拡張の場となりました。そして室町時代になると、白河結城氏や岩城氏、佐竹氏の勢力の狭間で攻防が繰り返されました。

戦国時代の永正年間に至り、佐竹義舜の支配下におかれ、文禄の太閤検地によって、佐竹義宣が領有するところになりました。以来、常陸国に属するようになりました。このころ佐竹氏により盛んに金山開発が行われ、全国第4位の産出量を誇りました。

関ヶ原の戦い後、慶長7年に佐竹義宣が秋田へ移封されてから、水戸徳川氏の領有するところになりました。この移行期に生瀬の乱という大規模な一揆が起きています。



如信上人終焉の地(大子町大字上金沢)



弥生式土器(猪鼻峠遺跡)

大子の歴史

History of Daijō

江戸時代には、陣屋や郷校が置かれ、政治・経済・物流の中心地として栄えました。特にこんにゃく栽培が盛んで、水戸藩の専売品として藩財政を支えました。領内の北辺であったにもかかわらず、2代藩主光圀公や9代藩主斉昭公がたびたび巡村で訪れています。

やがて幕末になると、尊王攘夷運動が大きな影響を与え、水戸藩の天狗党と保守派による内戦の場となりました。

明治時代を迎え、明治元年に徳川昭武が水戸藩知事になり、明治4年7月の廃藩置県の際に水戸県に属し、同年11月に茨城県に属するようになりました。その後、明治22年4月の市制・町村制実施によって、この地方では9村が誕生し、明治24年8月に大子村が大子町として町制を施行しました。以来、1町9か村として長い間歩んできました。

明治6年以降、各地に小学校の設立が開始され、明治末には農学校も設立されてい

ます。明治36年に現在の国道118号となる県道が改修され、昭和2年に大郡線(現水郡線)が常陸大子駅まで開通し、交通の便が飛躍的に良くなりました。大正5年には、町民が待ちわびた電燈が点火しました。太平洋戦争の悲しい歴史があり、昭和20年には常陸大子駅が空襲されています。

戦後、昭和28年9月の町村合併促進法の施行に伴い、この地方の各町村でも急速に合併気運が進みました。昭和30年2月に1町8か村が一斉に合併議決を行い(下小川村は、那珂郡山方町と大子町に分村)、同年3月31日、現在の「大子町」が誕生しました。



桜田十八士の一人、関鉄之助の歌碑



「水郡線の父」根本正像